

生物リズムに関する国際シンポジウム開催のお知らせ

■期 間：2009年8月1日（土）～8月4日（火）

■会 場：京王プラザホテル札幌、北海道大学学術交流会館、北海道大学臨床大講堂

本シンポジウムは、北海道大学における光イメージング拠点の設立記念シンポジウムと共同開催となります。

■シンポジスト：

Lectures: Menaker(Univ Virginia), Daan(Univ Groningen), Skene(Univ Surrey), Schwartz(Univ Massachusetts), Block(UCLA), Honma K(Hokkaido Univ)

Perspective on Biophotonics: Zhang(Stanford Univ), Nagai(Hokkaido Univ)

Cutting Edge on FCS: Schwille(BIOTEC), Kinjo(Hokkaido Univ)

Molecular Mechanisms of Circadian Clock: Kondo(Nagoya Univ), Hardin(Texas A&M), Tei(Kanazawa Univ), Maywood(MRC)

Circadian Organization in Humans: Uchiyama(Nihon Univ), Roenneberg(LMU), Nakao(Tohoku Univ)

Circadian Organization in Organisms Other Than Mammals: Helfrich-Förster(Univ Regensburg), Tomioka(Okayama Univ), Page(Vanderbilt Univ), Dunlap(Dartmouth Med Sch)

Circadian Organization in Mammals: Kawamura(MITILS), Takahashi(UT Southwestern), Ueda(RIKEN-CDB), Okamura(Kyoto Univ)

Suprachiasmatic Nucleus: Shigeyoshi(Kinki Univ), Silver(Columbia Univ), Welsh(UCSD), Honma S(Hokkaido Univ)

Photic Entrainment: Foster(Oxford Univ), Ebihara(Nagoya Univ), Piggins(Univ Manchester), Fukada(Univ Tokyo)

Non-photoc Entrainment: Shibata(Waseda Univ), Aguilar-Roblero(UNAM), Ishida(AIST)

■参加申し込み：下記のHPよりお申し込み下さい。

<http://www.ec-pro.co.jp/sapporosymposium/>

■参加 費：全日：一般8000円、学生3000円

光イメージングのみ(8/1および8/2のポスター発表)：一般2000円、学生1000円

■ポスター発表：ポスター発表の申し込みは、5月15日までとさせていただきますが、期日以後に申し込みをご希望の方は、下記まで個別にお問い合わせください。

生物リズムに関する国際シンポジウム実行委員会
委員長 本間 研一

《お問い合わせ先》 生物リズムに関する国際シンポジウム実行委員会

〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目

北海道大学大学院医学研究科生理学講座時間生理学分野 担当 吉川 朋子

e-mail: tomokoyn@med.hokudai.ac.jp TEL&FAX: 011-706-7871

第16回日本時間生物学会学術大会へのお誘い

本年度（平成21年度）の第16回日本時間生物学会学術大会は、10月25-27日、大阪で開催されます。今回は、アジア睡眠学会、日本睡眠学会との合同学会として、大阪国際会議場と大阪中央公会堂で開催されます。従来に無い新しい試みをしておりますので、皆様ふるってご参加ください。

合同学会全体としては、3つの基調講演、7つの特別講演、34のシンポジウムが行われ、非常に大規模な学会となります。また、多数の外国人の参加が見込まれ、国際色豊かな学会になります。

この中で、時間生物学会関係の講演も国際水準になっております。まず、基調講演ですが、Steven Reppert教授（University of Massachusetts）にご講演していただきます。Reppert先生に関しては皆様もご存知でしょうが、1980年代から現在までずっと哺乳類におけるリズム研究を引っ張ってこられた方で、特にメラトニン受容体から時計遺伝子研究にかけての研究で、今日の時間生物学の隆盛の一翼を担われました。最近では、オオカバマダラ monarch butterflyの渡りの研究など非常にユニークな仕事に挑んでおられます。また、特別講演として、細胞内シグナル伝達系の世界的な学者である京都大学生命科学研究科の西田栄介先生に「生物リズムにおける蛋白質リン酸化シグナリング」について、また、日本の哺乳類の時計研究を長年にわたり先導していただいている早稲田大学先進理工学研究科の柴田重信先生に「リズムと栄養」についてお願いいたしました。リズム研究をされている皆様は、行動学、臨床、細胞学と多彩な領域から生体リズムに取り組んでおられると思いますが、今回のこれらの講演は、十分皆様の興味を満たすものと信じております。

また、シンポジウムといたしましては、深田吉孝、桑和彦、上田泰巳の先生方をお願いし企画いたしました。「細胞時計を支える分子と制御」、「代謝、発生、脳、行動などの生体のさまざまなリズムの意義」、「生物時間の設計原理」、などを扱います。また、睡眠学会と共催のシンポジウムであります「分子時計と病気」では、癌時間治療の第一人者Francis Levi所長（INSERMU776）、幹細胞がサーカディアンリズムに沿って血中に放出されることを発見されたPaul Frenette教授（Mount Sinai School of Medicine）にご講演願います。

今回は国際学会ですので、全体としては、英語のシンポジウムが約半分あります。英語の講演も良いのですが、言語が英語だけでは、その理解が半減する可能性があります。そこで、今回はReppert先生の講演は同時通訳、また時間生物学独自のシンポジウムの講演では、外国人の講演は英語、日本人の講演は日本語という、日英混合スタイルを採用いたします。

また、今大会の目玉として、大型企画である「時間塾」を開催いたします。これは、初日（25日）全日と2日目（26日）午前中に開催されます。この奇妙な題名を少しく紹介いたしますと、普段接触することのまれな、時間生物学会の若手メンバーに、指導的立場の人が、最新の知識と時間生物学の展望を語る会とでも、言えると思います。講師はシニアリサーチャーで、インタラクティブな講義を目指します。この講師には、是非、次世代の時間生物学を目指す学徒に、膝詰で講義していただきたいと考えています。この企画では、時間生物学会というヘテロなオリジンをもった学際的な分野の集合体での、各々の分野の伝統の保持も狙っています。

若い研究者の皆さん、ポスターを是非出してください（登録のまだな方は、http://www.asrs2009.org/modules/japanese/index.php?content_id=1）。今回は、時間生物学会が優秀なポスターを選び、アワードを与えることを計画中です。また、注目すべきポスターをセレクトイッドオーラルとして講演もお願いしたいと考えています。もちろん、このオーラルではシンポジウムに取り上げられなかった分野も重点的に取り上げます。

プログラムの紹介は、以上です。従来は2日間でしたが、今回は、時間塾を含めると3日間のスケジュールで時間生物学会が主となるプログラムが開催されます。皆様、ふるって、大阪にお越しください。今回の学会は、会場も見ものです。古の大阪の相場師が建てたというネオルネッサンス様式の歴史的建造物であります「中央公会堂」では時間塾を、また、日本の代表的な現代建築物であります「国際会議場」では本会議を催します。是非、3日間ともお越しになり、大阪をお楽しみください。

第16回時間生物学会 会長 岡村 均

合同大会の中の主な時間生物学会関係のプログラム

1) 時間塾 (中之島公会堂)

日 時：10月25日 (10時-18時)、26日午前 (9時30分-12時)

場 所：中之島公会堂 (中会議場)

言 語：日・英混合

目 的：普段接触することのまれな、時間生物学会の若手メンバーに、指導的立場の人が、最新の知識と時間生物学の展望を語る会。

講 師：時間生物学の指導的なメンバー

2) 基調講演 Steven Reppert (University of Massachusetts)

日 時：26日午後1時-2時 (国際会議場第二会場)

言 語：同時通訳

3) 特別講演1 西田栄介 (京都大学)

演 題：生物リズムにおける蛋白質リン酸化シグナリング

日 時：27日午後1時40分-2時30分 (国際会議場第二会場)

言 語：日本語

特別講演2 柴田重信 (早稲田大学)

演 題：リズムと栄養

日 時：27日午後2時30分-3時20分 (国際会議場第二会場)

言 語：日本語

4) 時間生物学会シンポジウム

(1) シンポジウム名：邦 題「生体の持つさまざまなリズムの意義」

英語名：Significance of Various Biological Rhythms

日 時：26日午後2時-4時30分

座 長：糸、石田

言 語：日・英混合

(2) シンポジウム名：邦 題「生物時間の設計原理」

英語名：Design Principles of Biological Time

日 時：26日午後4時30分-7時

座 長：上田、吉村

言 語：日本語

(3) シンポジウム名：邦 題「細胞時計を支える分子と制御」

英語名：Cellular Clock: Molecular Oscillation and Its Regulation

日 時：27日午後3時20分-5時50分

座 長：深田、八木田

言 語：日・英混合

5) 睡眠学会との合同シンポジウム

(1) シンポジウム名：邦 題「分子時計と病気」

英語名：Molecular Clocks and Diseases

日 時：27日午後9時00分-10時40分

座 長：岡村、大塚

言 語：英語

6) 三学会合同シンポジウム

(1) シンポジウム名：邦 題「夜、暗闇とメラトニン」

英語名：Night, Darkness and Melatonin

日 時：26日午後

座 長：内山 真（日本大学）、Steven Reppert（University of Massachusetts）

言 語：英語（同時通訳）

7) 時間生物学会セレクトイットオーラル講演

(1) セレクトイットオーラル1 優秀ポスター講演

日 時：27日午前9時-11時

座 長：八木田 和弘（大阪大学）他

言 語：日本語

(2) セレクトイットオーラル2 優秀ポスター講演 座長：

日 時：27日午前16時-18時

座 長：重吉 康史（近畿大学）他

言 語：日本語

The 6th Congress of
Asian Sleep Research Society
The 34th Annual Meeting of
Japanese Society of Sleep Research
The 34th Annual Meeting of
Japanese Society for Chronobiology

Joint Congress

OSAKA, JAPAN

October 24 – 28, 2009

<http://www.asrs2009.org/>



**Ahead of a New Era in Sleep and
Chronobiology Research from Asia**



©Satsuko Miyake

Masako OKAWA, M.D.
President of the 6th Congress of ASRS

Yoshihiro URADE, Ph.D.
President of the 34th Annual Meeting of JSSR

Hitoshi OKAMURA, M.D.
President of the 6th Annual Meeting of JSC

“100th Anniversary of the discovery of sleep substances by Ishimori”

The 6th ASRS Satellite Symposium in Okinawa

Molecular Biology and Physiology in Sleep and Sleep Disorders

Date: October 30 – 31, 2009



©財団法人大阪観光コンベンション協会
www.osaka-info.jp

2009年三学会合同大会ポスター

Invitation

Dear Colleagues,

On behalf of Local Organizing Committee, we would like to cordially invite you to join "The 6th Congress of Asian Sleep Research Society (the 6th ASRS)", "The 34th Annual Meeting of Japanese Society of Sleep Research (the 34th JSSR)" and "The 16th Annual Meeting of Japanese Society for Chronobiology (the 16th JSC)" which will be held from 24(Sat.) to 28(Wed.), October 2009 in Osaka, Japan.

The theme for this congress will be "ahead of a new era in sleep and chronobiology research from Asia." On the back of rapid economic development, the Asian region is currently faced with a number of important issues, namely, diversification of lifestyle, computerization, and transformation into a 24-7 society. Alongside the many environmental issues, maintaining health and a high-quality lifestyle in this kind of society is a major public health problem, and research into sleep and biological rhythms has further increased in importance for achieving a resolution for this issue. The purpose of the congress will be for these societies to jointly communicate new research topics. Support will be provided at the joint congress for the objective of nurturing and developing especially young researchers. We look forward to welcoming as many of you as possible at the joint congress.



President of the 6th Asian Sleep Research Society

Masako OKAWA, M.D.

Professor, Department of Sleep Medicine,
Shiga University of Medical Science, Shiga, Japan

Masako Okawa



President of the 34th Annual Meeting of
Japanese Society of Sleep Research

Yoshihiro URAIDE, Ph.D.

Head, Department of Molecular Behavioral Biology,
Osaka Bioscience Institute, Osaka, Japan

Yoshihiro Uraide



President of the 16th Annual Meeting of
Japanese Society for Chronobiology

Hitoshi OKAMURA, M.D.

Professor, Department of Systems Biology, Graduate School of
Pharmaceutical Sciences, Kyoto University, Kyoto, Japan

Hitoshi Okamura

Date

October 24 [Sat.] - 28 [Wed.] 2009

Venue

**Osaka International Convention Center
(OICC GRAND CUBE OSAKA)**

5-3-51, Nakanoshima Kita-ku, Osaka 530-0005 JAPAN

<http://www.gco.co.jp/english/>

Osaka Central Public Hall

1-1-27, Nakanoshima, Kita-ku, Osaka 530-0005, Japan

Languages

English / Japanese

URL

<http://www.asrs2009.org/>

Access



2009年三学会合同大会ファーストサーキュラーより一部抜粋